

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年度3月11日
函館市立銭亀沢中学校

1 本年度の重点教育目標

確かな学びを通して、自分らしく豊かに生きる生徒の育成

2 本年度の取組の重点

- 一人一人を大切にする教育活動の展開
- 教育の質の向上と生徒の確かな学びの推進
- 社会性伸長に向けたコミュニケーション能力の育成
- 学校を支える地域のネットワークづくりの促進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
創意あふれる調和のとれた教育課程の編成・実施	学習指導要領の趣旨を実現する適切な教育課程の編成と実施。	a	個別最適な学びと協働的な学びの視点からの授業改善。少人数の特色を生かした教育課程の編成。	A	A	
	生徒一人一人の実態を踏まえたきめ細やかな指導の実施	b	さらなる生徒の分析とそれぞれの個性を伸ばす学習活動の推進。	B	A	
組織的に機能する協働体制の確立	経営参画意識を持ち、協働して校務を遂行している。	b	現状や課題の正確な把握に努める。PDCA サイクルを生かした教育活動の絶え間ぬ見直しと職員一人一人の経営参画意識の向上を図る。	B	A	
	学年・分掌・特別委員会の組織的な運営の推進がされている。	b	特別委員会（特別支援委員会やいじめ・不登校対策委員会等）の積極的な活用と充実。情報共有・情報交換の徹底を図る。	B	A	
職能向上を目指す研修の充実	学校課題の解決に向けて校内研修体制が充実している。	a	課題の焦点化と生徒指導研修等、多様化した研修を目指す。	A	A	
	実践的な指導力を高める研修が計画され推進されている。	b	本校の教育課題に係る事項と同時に主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を行う。またコンプライアンス研修等も含め教職員の服務規律に係る研修も計画的に実施する。	B	A	
社会的な自立を目指す生徒指導の推進	生徒一人一人が自分の良さに気づき、自己肯定感が高まるように生徒指導が工夫されている。	b	生徒に成長を促すために、自分の指導方法が適切かどうか常に振り返る	B	A	
	生徒に自己指導力が身につくような指導の工夫がされている。	a	少人数であることを生かし一人一人が活躍する場面の保証を行う。	A	A	
保護者・地域・異校種との連携	行事・研修等をいかした小中連携が進んでいる。	a	体験入学等や生徒会活動を通して交流を充実させる。また職員の合同研修の定期的な実施を継続する。	A	A	更なる交流を。
	保護者・地域とのパートナーシップ作りが進んでいる。	a	学校運営協議会の情報の幅広い提供。地域人材と協働した授業実践。	A	A	更なる交流を。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。